

令和5年度第1回葉山町公共施設等総合管理計画策定委員会 議事要旨

日 時：

令和6年3月27日（水）14：00～16：15

場 所：

議会協議会室2

出席者：

委員）古賀 紀江（委員長）、柳澤 要（副委員長）、安達 禎崇、宮寺 透雄、

北原 淳子 ※欠席：中野 徹、加藤 清

事務局）町田伸政策財政部長、公共施設課岩田課長、長谷川主査、伊倉主任

資 料：

- ・令和5年度第1回葉山町公共施設等総合管理計画策定委員会次第
- ・令和5年度第1回葉山町公共施設等総合管理計画策定委員会 全体資料 資料1
- ・令和4年度第2回策定委員会からの葉山町公共施設等総合管理計画の変更点等 資料2
- ・葉山町公共施設等総合管理計画(追補版)(案) 資料3
- ・葉山町公共施設等総合管理計画 資料4
- ・葉山町公共施設等総合管理計画第一次実施計画 資料5

議事要旨：

●開会

町田政策財政部長よりご挨拶

●開催の要否

出席者5名で過半数に達しているため、開催とする。

●会議の公開について

本日の委員会は公開とする。（傍聴1名・窪田議員）

●質疑・意見

- ・アンケート調査の結果はどうだったのか。（委員）
→資料3に記載した。（事務局）
→アンケートの質問項目に興味があり、回答する属性によって回答が異なると思うが、

- 分析を行ったのか。(委員)
- 年代や字によって施設に対する考え方が異なっていた。報告書にまとめたので改めて委員の皆様にはお示ししたい。(事務局)
- あったら良い施設の理由も回答してもらっているのか。(委員)
- 施設を選んでもらうが理由までは求めなかった。(事務局)
- 民営化のメリット・デメリットがある中で、回答者がそこまで理解した上で回答しているのかが気になった。(委員)
- 質問の意図はできるだけ明確にすべき。(委員)
- ・(葉山町公共施設等総合管理計画) 追補版5ページの維持管理経費について、人件費は含めないのか。(委員)
- 含めていない。子育て支援センターの人件費は業務委託費に含めており、直営施設と指定管理施設だと人件費の取扱いが異なり、費用の内訳を細かく分けることは難しい。水道光熱費、施設修繕費や清掃費は維持管理経費に含めており、それらを町全体で合算すると毎年約3億円の費用が発生している。(事務局)
- 30年間の期間だけでなく、今後50～60年を見据えて建て替えを選択するかは、コスト比較しながら検討を進めたほうがよい。(委員)
- この長寿命化の推計の記載で問題ないか。この推計が数あるパターンのひとつということであれば、そのことを記載しないと正しい情報の開示にはならない。(委員)
- 長期に渡っての年ごとの収支のバランスがわかるシュミュレーションを行って掲載した方が町の財政状態も含めわかりやすくなる。(委員)
- 今回は総務省からの指針の改訂に基づき、追補版を策定したが、引き続き情報収集に努め、検討内容を委員にお示ししたい。令和7年4月から第5次葉山町総合計画がスタートし、FM会議での議論が進んでいる中で、町としては第5次葉山町総合計画で公共施設の今後の方向性を示す必要があるとは考えている。場合によっては、公共施設の再編により、ダウンサイジングすることの必要性も検討しなければならない。(事務局)
- 公共施設の縮減目標に関しては、年度ごとに床面積などの縮減目標を行い、〇〇%縮減目標などを指標にする必要があると思う。(委員)
- もっと長いスパンで見える化したほうが分かりやすい。(委員)
- 下水道ではウォーターPPPの導入を検討しており、官民連携により事業を進ませることも必要ではあるが、人口減少や地域性を加味した公共施設の再編も検討しないといけない。小中一貫校の整備については庁内で議論が加速しているが、親御さんや児童生徒から理解を得ることが欠かせない。(事務局)
- 地域ビジョンが必要ではないか。町一律に方針を定めるのは難しいと感じる。(委員)
- 地域性を加味しながら議論を進めることはFM会議においてもすでに意見が出ており、その観点は重要だと捉えている。(事務局)

→大きなルールを決めても、施設の運用で特例を認めると縮減が進まない例もある。(委員)

→小中一貫校整備にあたっては、地域住民への理解が必要となる。(事務局)

→町の理念をしっかりとっておかなければならない。公共施設の面積縮減のために、小中一貫校を整備するわけではなく、一番の目的は町の理想とする教育があり、それを実現するためだと説明できなければならない。また、一方が小中一貫校として整備され、もう一方がそのままという状況は望ましくない。やるのであれば、品川区のように、葉山町全体の整備を進ませることが必要となる。町民に対して、一貫した説明が求められると思う。(委員)

→学校やコミュニティ施設がなくなれば、災害時に避難できる場所がなくなるとも言える。ひとつの物差しではなく、多角的に物事を考える必要がある。町としての方針を策定するには、まず何が必要かを考えてもらいたい。今回、追補版を策定しているが、これで終わりではないということを示すためには前言を入れたほうがよい。(委員)

・小中一貫教育と地域コミュニティを並行して議論を進める場合、学校施設の複合化は別のソリューションになるので、地域を対象に議論を進めるのか、町全体として議論を進めるのか、方針はあったほうがよい。町の考えをしっかりと整理していくことが重要。(委員)

→FM会議において議論しているところであり、学校内にあればよい機能は引き続き検討していく。議会で予算をお認めいただいたので、学校再整備の基本構想・基本計画について業務を委託し、まずは町にとって相応しい候補地を事業者に提案してもらうよう教育委員会が進めている。(事務局)

→アンケート結果のとおり、多目的運動施設を望む声は多く、地域の方が通いやすい場所に多目的運動施設があるとよく、学校は高台に整備するなど、基本的な考え方があるとよい。(委員)

→住民説明会においても学校は高台にあるのがよいという声があった。(事務局)

→個別施設計画策定支援業務はコンサルなのか。(委員)

→コンサルも含めている。これまで修繕を行ってきたが全ての修繕に対応できていないわけではないので、各施設の不具合箇所を確認しながら計画に反映させたい。学校再整備の方向性と並行しながら個別施設計画を策定していく。(事務局)

→千葉県内のある自治体において学校整備を中心とした議論を行ってきたが、学校施設の担当者から何らかの理由でストップがかかり、このことで議論が進まなくなってしまったことがある。町全体の方針があり、その中に学校の方針があり、横断的な組織のもとで議論を進ませるのが望ましい。小中一貫校の整備だけでなく、スポーツ施設など地域の特色にあった施設整備の方針を検討することも必要ではないか。小中一貫校の整備だけでPFI方式を採用するのは難しいと思う。(委員)

→これまでのFM会議ではコミュニティ施設機能を導入することや、学童の受入スペー

スを設ける議論を行ってきた。（事務局）

→札幌市は学童保育を児童館で受け入れつつ、放課後は学校内のスペースを活用できるようにした。他の自治体では、福祉エリア、スポーツエリアといった地域に特色を持たせた整備も行っている。（委員）

→体育館やプール整備の声があり、議論は続けるが他自治体の状況を見ていると整備費だけでなく、維持費に莫大な費用が発生している。（事務局）

・木の下会館は洪水ハザードマップに含まれており、公共施設の再編には水災害の対象地域に施設整備対象地を含めないほうがよいのではないかと。（委員）

→防災の観点を重視し、危険を回避できるような場所に整備するのが望ましいと考えている。（事務局）

→大きな方針が見えない中で、堀内会館や旧葉山はばたきのように個別施設を対象にすることが進め方としてよいものか。キーワードがないと今後の整備も同じことになる可能性がある。（委員）

→都市計画マスタープランとの整合性も必要。堀内会館はどのように利用されているのか。（委員）

→コミュニティ施設として町内会がよく利用している。公共施設再編の結果、施設に行くのにこれまでより距離が長くなってしまい、利便性を妨げられるようになると本末転倒なので、交通利用も踏まえながら利用者ニーズに応じていかないといけない。（事務局）

→葉山町では徒歩圏内 10 分で施設にたどり着くことができるなど、物差しが必要だと考える。（委員）

→駐車場がないと人が集まらない。バスが減便される話を聞いており、車の利用が葉山町では欠かせない。（委員）

→公共バス利用への期待は大きいものの、新たな交通手段も考えていかないといけない。（事務局）

→コンパクトシティのメリットはあるのか。葉山町として検討する必要はあるのか。（委員）

→葉山町はすでにコンパクトであるように見えるが、交通計画の策定や、地域ごとのまとまりを描いていくほうが今後の検討に繋がる。（委員）

→日常的に利用しない公共施設は統廃合の対象にしていくのも手法ではないか。ワークショップを行い、交通網と合わせて検討していくのがよい。（委員）

→学校再整備のときに、これからどのように町が変わっていくのかを考えながら作業するのは楽しいことではある。（委員）

→千葉県内のある自治体では、4 地区に分けて検討を進めている。全体の方針は行政側で決める必要があるが、どのような施設が必要か地域主体で考えている様子。（委員）

→住民に参加してもらい、進め方についての議論を行ったほうがよい。（委員）

- 約 32,000 人の葉山町はコンパクトではあるが、施設機能の集約についてFM会議で議論したことはなかったので検討してみたい。（事務局）
- 住民代表の方と進めていくことも大切。キーパーソンがいると議論を進ませやすくなり、自治会が中心になって住民のニーズを反映させた「地域ビジョンブック」を作成した地域があると聞いている。（委員）
- 第5次葉山総合計画では、「学び続けたい町」を一つのスローガンとして掲げ、児童生徒に限らず、どの世代においても学べることに町として力を入れるべきであると認識している。（事務局）
- 「学ぶ人呼び込む町」でもあってほしい。学生に住んでもらうのもよいのではないか。人を呼び込む方法はもっとたくさんあるのではないか。（委員）
- 町としてのスローガンがあるのはよい。「日本一優しい」や「日本一健康」を掲げていたら興味がある。（委員）
- いろいろなレイヤーが重なった町の地図を作れると楽しい。（委員）
- 「歩くのが楽しい公園」のようにコンセプトがあるのもよい。（委員）
- 観光客を呼び込むこともできる。（委員）
- 自転車を利用してもらうことも案の一つではあるが、交通事故を招く恐れがあり、地域性を考慮した交通施策を考えていく必要がある。（事務局）
- 施設整備について、教職員はほとんど把握しておらず、小中一貫教育の内実に入れて検討してきた。本日の会議に出席し、「小中一貫校」という言葉の中には、教育の内実としてのソフト面と、環境整備としてのハード面に分かれているのだとはっきり感じた。（委員）
- ソフト面を考えながらハード面を整備しないと、将来的に不幸になることも多く、現場の教職員と議論をすることが大切。（委員）
- ソフト面とハード面を切り分けて検討すべきだが、双方が整合できることが必要。（委員）

以 上